

歴史資料館所蔵 今泉文書

## 橘門の手紙

米水津古文書解読会

### 【解読文】

當方ニテハ楳雨モ程能ク降り其

後追々暑氣ニ向ヒソロ 豊作ナラント

祝うノ至リニソロ○四月十七日鶴崎

ノ蒸氣船ニ佐賀関ニテ乗り如期

着坂ス 其翌神戸ニ下り入餘

祿ノ汽船ノ来ルヲ待ツ 其間布引ノ

瀑布ニ遊

(往來共人力車 此日ノ諸人用ハ山田氏ノ馳走ナリ)

御蔭(御影)ノ友人ノ宅ニ一宿シ又神戸ノ芝居ヲ

(辨當等ハ日高弥一郎ト申スモノ仕出ス)

觀ル仙台萩 上國ノ藝ト衣裳ノ美ナル

(懸案ニ大坂ノ大芝居ヲ十分ト定メタル處デ

神戸ノハ六分位ノ直ヒナリ琴カ驚クムリナラズ)

ヲ見テ琴ハ驚キ目を◎ント欲ス○

廿九日晴天午後ニウヨロク汽船ニ乗ル

(コレハ船ノ名ニ非ス アメリカノ地名也

其他コスタリカ等モ然リ)

中等ノ間ナリ 船ノ規則甚正シ 男

女廁ヲ異ニスルノ一條ニテ其餘ハ類

推スヘシ○ 五月朔早朝横濱ニ着ス

即チ傳信機ヲ以テ倅新ニ申遣ス

其文如左 タダイマチャク アキヅキ

上封ハ東京愛宕下佐久間小路

④毛利從五位殿邸内秋月陸

軍大録殿トス 築地ノ傳信機局

ニテ是ヲ受ケ直チニ新ニ申ス事

ナリ」扱横濱ノ手配リ一通リ相済ミ

先々一杯トテ酒ヲ飲ミ飯ヲ喫スル也

緒方素太郎并ニ奴一人荷物ヲ

守護シ川蒸氣ニノリ築地ニ向フ

予ト琴ハ無供無婢ニテ人力車ニ

打乘リ愛宕下ニ向フ横濱ヨリ

七八里ノ處車ハ一トヤリニヤル急ケト

云ヘハ走ル品川ノ駅ハツレノ處ニテ早クモ

新井ニ谷謹一郎松岡哲夫

尾間君平淺澤清風等ニ出

逢フタリ一僕ナシノ老人ト婦人ナル故人

力車ヤ、輕蔑ノ模様モアリシニ右ノ

諸官員地上ニ平伏シ丁寧ニ挨拶

スルヲ見テ大ニ驚ケル体也一咲ヲ發ス

ヘシ品川ニテ又先々トテ諸子ト一

杯ヲ傾ケアリ車ニ載ル高輪ヨリ

車ヲ止メ徐々ト歩行シ申ノ刻京ニ入ル車ハアタゴ下

マテノ約束ナレトモ人々ト談話ガ出来又故歩行セシナリ車

ハ

(…省く…)

日幸休日故諸子の出迎都合ヨキ

ナリ ○着ノ歎ヒトテ待チ居ル衆ハ

竹中矢野其外誰々也ソコデ衆

人待設ケノ馳走(皆々ヨリ持チ寄リトアトニテ承ル)ニ飽キ

前後モ分ス打倒タリ(尤ノ事ナリ)○ソレヨリ日々散歩日ニ

微飲到着ヲ聞キ訪来ル人モアリ

○扱長談ニテ申後レタリ出立ノ節ハ

不存寄思ヒ思ヒくノ御饒別不淺

かたじけなく  
辱奉存候

主上ニハ萬民安堵ノ事ニ御苦

慮被遊今般遙々ノ御西幸

難有事ニ候間政事向キライロく

言ハス家業大事ニ御働キ追々繁

昌有之様肝要ニ存候○新モ琴モよろ

しくと申出候 ○新ハ如何ナル人ガ推

挙致候ヤトソロく探偵スルニ一向ニワカリ

不申候○老夫婦邑までは各様ノ

内一人タリトモ病氣ハ停止ニソロ死ヌル

コトハ猶更也帰リノ上又先々ト申テ

一杯モ百杯モ傾ケ可申候不一

六月三日

白鬚妙人

来春トモハ上坂モシ序ニ東京マテコサレ

山内文吾様

御老人不気候ノ中リあたモナキヤ

劉ノ一字新ニ見セタル處大ニ(…不明…)

今泉惣右衛門様

弥助ヨリ美扇子ノ贖アリ御禮ヨロシク

今泉 治平様

今泉 一郎様

川北 寸一郎様

尼崎 健蔵様

ヒゲチーサンイカ、日々何ヲシテ居ル蒸氣ニノリ東京ニ遊

ヒ玉ヘト申サセ玉ヘ

今泉 楮助様

青木 喜惣様

今泉二郎次様

①二別紙ナシヨロシク

山内 誠軒様

来春東行ノ口上ウソニスルコトナラス

田嶋 善助様

佐脇 峰太郎様

松本 与平様

高司倉五郎様

久富新四郎様

各様御家内中へよろしく御傳言申候 ○御

名前ハ席順ヲ以テ書スルニ非ス思ヒ出シ、ナリ

然レハ御名前ノ落チタルモアルナラン ○此  
状留リノ處ニテ焚棄候事

【大意】

こちらでは梅雨も程よく降り追々暑気にむかつておりま  
す。

今年は豊作になるだろうと祝う気持ちになります。

四月十七日鶴崎の蒸気船に佐賀関で乗りこみ予定通り大  
阪に着きました。

翌日神戸に下り、ニューヨーク行き汽船が来るのを待つ  
間、布引の滝に遊び

(人力車で移動 この日の諸用は山田氏のおもてなしで  
ある)

御影の友人の家に御厄介になり神戸の芝居を観る。仙台  
萩。

(弁当などは日高弥一郎というものが用意した。)

上國の芸と衣裳の美しいのを見て(新の嫁である)琴は驚  
き目をまわさんとしておる。

(思うに大坂を十とすれば神戸は六分位ノ値段である。琴  
が驚くのも当然である。)

二十九日晴天午後ニューヨーク行の汽船に乗る。

(これは船の名ではなく、アメリカの地名である。その他  
コスタリカ等も同じ。)

中等級の船室である。船の規則はとても正しく、男女の  
トイレは別である一文ががあり、他も類推する。

五月一日早朝 横浜着。

すぐに伝信機で新に電報。その文章は左のようである。

「只今着いた。 秋月」

上書きは東京愛宕下佐久間小路毛利従五位殿邸の内

秋月を陸軍大録殿とする。 築地の伝信機局でこれを受

けて新に申したことである

さて横浜の首尾は一通り済み

まずまず一杯と酒を飲み、食事する。

緒方素太郎と奴一人が荷物を

預かってくれ川蒸気に乗る築地に向う。

私と琴はふたりで人力車に

打乗り愛宕下に向う。横浜より

七、八里。車は一気に向かい、急げと

言えば走る。品川駅を外れてすぐ

(息子) 新、谷謹一郎、松岡哲夫、

尾間大平、浅澤清風などに出逢う。

下僕も連れていない老人が婦人連れなので

人力車の車夫は少し軽蔑のまなざしであったが

右の諸官員が地に伏すように丁寧に挨拶するのを見て大  
いに驚いていた。

一笑に付すものである。

品川では又まずまずと諸士と一杯を傾けた。人力車は高  
輪から降りて

ゆるゆると歩きながら午後四時ごろ東京に入った。

人力車は愛宕下までの約束だったが歩いたので皆と話がで  
きた。

…省く…

(この)日は幸い、休日であったので諸子の出迎えに都合  
が良かった。

到着の歓びで待ち居る方々は竹中、矢野そのほかである。

そこで皆さん、待ち受けてご馳走(皆で持ち寄りであると  
後で聞く)にも飽き前後も分ならず終えた。(もつともで  
ある。)

それからは日々散歩、日々一杯やり 到着を聞きつけて

訪ね来る人もいる。

さて長くなりましたが 出発の節は

思いがけず思い思いのご饞別かたじけなく思います。

お上には萬民安堵の事に御苦慮遊ばされ、この度遥々の

ご西幸あり難き事である。政事向をあれこれ

言わず家業大事にお働きすれば追々繁

昌していくのが第一と思ひます。

新も琴もよろしくと申しております。

新の栄達はどのような人の推挙であろうかと探りを入れ

てみるが一向にわからない。

老いはれの私が戻るまでは皆様のうち一人も病気にはな

らずに、死んだりしてはなおさらいけません。

帰ったら又まずまずと言つて

一杯も百杯も傾けなくては。不

六月三日 白鬚妙人

来春は上坂のついでに東京までおいでください。

山内文吾様

ご老体には気候にそぐわないこともあり…

劉の一字新に見せたら大いに…不明…

今泉惣右衛門様

…省く…

弥助より美しい扇子のはなむけあり、お礼をよろしく。

今泉 治平様

今泉 一郎様

川地 本一郎様

尼崎 健蔵様

鬚爺さんいかが？日々何をしている？蒸気船で東京に遊び

においてと伝えてください。

今泉 権助様

青木 □勲様

今泉三郎次様

⑧二別紙ナシヨロシク

山内 誠軒様

来春東京へ行く約束は嘘にしてはいけないよ。

田嶋 善助様

佐脇 峰太郎様

松本 与平様

高司倉五郎様

久富新四郎様

みな様、御家内中へよろしくお伝えください。お名前は順

不同、思い出し思い出し書きました。お名前の落ちもある

でしょう。この便りは止つたところで焚き棄ててくださ  
い。

### 【解説】

兵部省に出仕していた息子秋月新(のち新太郎)が陸軍  
大録に任じられた明治五年三月直後の書簡と思われる。  
新は西南戦争では征討軍本営(征討総督 有栖川宮熾仁親  
王)書記を仰せ付けられ、終結するまで山縣有朋等と行動  
を共にする。

秋月家は日向高鍋藩主秋月氏の支族。橋門は日向国富  
本に医師水筑周助の子として生まれる。周一郎、中馬、大  
可、小相。橋門と号した。十六歳で広瀬淡窓の咸宜園に入  
門。代官塩谷大四郎の不興を買い咸宜園を追放され、筑前  
亀井昭陽の塾で学ぶなどして、帰郷後医を業とした。佐伯  
藩主毛利高泰に請われ、弘化四(1847)年、三十九歳で佐  
伯藩校四教堂の教授を務める。慶応四年七月、新政府に徴  
され三河県知事、鎮守府弁事、葛飾県知事を歴任。

晩年は牛込神楽町一丁目三番地(現東京理科大学内)に  
退隠し、明治四(1871)年頃組橋玉川亭で咸宜園出身者等  
と玉川吟社を結成、漢詩に勤しんだ。

この書簡には封筒や包紙がなく、署名、日付もないが、『ア  
キヅキ』であり、大録新の父であることで秋月橋門の書状  
とした。

明治十三(1880)年四月二十六日死去。明治十八(1885)  
年二月弟の手により養賢寺松雨台に石碑が建てられ、本  
堂横墓地、寺境内に移された。

(文責 児玉)

### 【参考】

『大分県偉人伝』 大分県教育会 昭和十年  
『弥栄の杜から』 仲野要一氏

米水津古文書解読会

(故) 井上安徳・菅野隆光・児玉潤子  
浜田平士・三股廣喜・吉田勝重・吉田齊次郎



五杯、の 恩、の 所、歸、別、不、海  
 厚、あり、  
 王、上、三、三、の、氏、安、坂、ノ、事、ノ、若  
 重、上、と、過、と、般、と、過、と、ノ、所、西、(古ノ)  
 勤、を、さ、さ、ゆ、の、政、事、向、キ、テ、イ、ウ  
 言、々、家、業、ち、ろ、ろ、の、信、追、と、其  
 留、年、に、行、お、す、○新、モ、得、る、也  
 ~~~~~○新、ハ、や、有、花、人、加、控  
 摩、河、ヤ、ト、ウ、控、像、を、二、二、ノ、カ、リ  
 不、已、○老、夫、悔、色、ヨ、ク、と、我、知、ノ  
 内、一、人、タ、リ、高、を、一、海、止、ン、口、死、え、ん  
 一、杯、モ、預、杯、モ、傾、テ、エ、レ、也、一  
 六、月、三、日  
 自、始、須、妙、人

山、内、文、也、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、西、ノ、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、南、ノ、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 川、水、丁、ノ、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 尾、崎、傳、藏、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、三、角、次、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 山、内、傳、持、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、太、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、子、次、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、倉、次、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、新、中、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、山、内、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、必、前、格 此、人、不、能、候、  
中、リ、セ、キ、ヤ  
 今、水、傳、必、前、ノ、為、テ、タ、ル、モ、ア、ル、コ、ト、○哉  
 今、水、傳、必、前、ノ、為、テ、禁、言、ト、ス、○哉